



Title	質疑応答
Author(s)	田中, 順子; 葛谷, 雅文
Citation	目で見るWHO. 2018, 66, p. 26-27
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86615
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

● 質疑応答

Q 1 : 口腔機能検査の検査料はどれくらいが想定されているのか？

田中先生 : 口腔機能低下症は今年 4 月から新たな病名となる。私が説明した 7 つの検査は医療保険の対象にするよう申請中のもので、厚労省の判断によって変わってくると思う。私が知っている範囲では、例えば 1 カ月に 1 回程度口

腔内管理医療として 100 点が加算されるのではないかと聞いている。

Q 2 : 歯科検診では、口腔機能に対してまで受け皿の体制が整っていないように思う。機能に関するところは口腔健診の分野なのか、あるいは医療健診の分野としてできるも

のなのか。現在行われている後期高齢者健診ではRSS T（反復唾液嚥下テスト）とブローイングで口腔機能をみているが、今後は口腔機能の7つの検査が入ってくるのかどうかを含めて見解を聞きたい。

田中先生：7つの検査については、数値を出す可能性があるとした私には分からない。どのような方法による検査になるのかは今月中には明確になると思う。

Q3：フレイルについて今後、行政がからんでフレイルのトレーナー養成の方向に進んでいくのか。

葛谷先生：行政はまだそこまで行っていないと思うが、サルコペニアフレイル学会ではそれに対応できるトレーナーを養成しようとしている。しかしフレイルはまだ病名になっていないので、その辺りをどうするかの問題がある。また、後期高齢者健診の現状は基本的にメタボ健診であり、それには私も疑問を感じている。将来的にはフレイル健診になっていくだろうと聞いているが、具体的なことはまだ決まっていない。

Q4：行政側で健康教室の中で運動教室をやっているが、その中で舌の力などに関する簡単なスクリーニング（検査）方法があれば聞きたい。

田中先生：検査となると数値が伴うものになってしまうが、RSS T、ブローイング、フードテストなど割と簡単にできるものもある。例えばブローイングは大学のリハの患者さんなども抵抗なくやっている。食べる分野の検査は病院なのであまり行ってない。

Q5：PPK（ピンピンコロリ）、NNK（ネンネンコロリ）の男女差はあるのか？

葛谷先生：よく分からないが、だいたい男性の方が早く亡くなるし、女性の場合は長生きして少しずつ自立度が低下してくるケースが多い。もちろん女性にもPPKの人がいるが、男性に比べると少ないと思う。

Q6：歯周病や口腔がん、噛み合わせ、咬合などの問題を総合的にとらえ、どのように維持していったら長く歯を維

持していけるのか？

田中先生：年齢が高くなって、歯を喪失する原因は歯周病と言われている。歯周病予防のためには、定期的な歯のクリーニング、歯石をとることだろう。その他にあまり硬いものを噛みしばらないこと。歯が多く残っている人でも歯が割れてくることもあり、表面のエナメル質だけならまだしも、最近では下の象牙質の層まで割れてくる人が多い。意識的に硬すぎるものを噛まないことが大切だ。睡眠時のブラキシズムという噛む癖（歯ぎしり）がある人は、ナイトガード（マウスピース）を入れるのも歯を維持する方法だと思う。

Q7：NPO組織で健康寿命を延ばすために健康体操やハイキングなど様々なことをやっているが、男性の参加率が非常に悪い。男性参加を促すための医学的な助言があれば聞きたい。

葛谷先生：私は栄養と運動の話をしたが、健康寿命を考える時にいちばん大事なものは社会参加だと思う。家にいるばかりで外に出ない男性を、いかに外に引っ張り出すかは大きな課題で、どこの行政も頭を悩ませている。一方で成功例もある。行政やNPO側が栄養訪問として自宅に栄養士を派遣し、本人と話をするとともに冷蔵庫の中身を見て必要なものを買うようにアドバイス。はじめは拒否していた人がだんだんと栄養士の指導にのって来るようになったという。出てくるのを待つだけでなく、逆に訪問することも男性参加のきっかけになるのではないかなと思う。

Q8：フレイルやサルコペニアと、オーラルフレイルとの関連性を聞きたい。

葛谷先生：オーラルフレイルは私が話した身体的フレイルになる前の状態。田中先生が話した口のいろんな問題が、将来に身体的フレイルにつながっていくという捉え方で、オーラルフレイルの概念が出てきたと思う。オーラルフレイル以外の要因もフレイルにはあると思うが、その中で口の問題は非常に大事で、オーラルフレイルが問題視されるようになったと思う。

WHO への人的貢献を推進しよう

広告

<p>医療法人 黒川梅田診療所</p> <p>院長 黒川 彰夫</p> <p>〒530-0001 大阪市北区梅田 1-3-1-300 大阪駅前第1ビル 3F</p> <p>TEL 06-6341-5222 FAX 06-6341-5227</p>	<p>医療法人 光陽会 小森内科</p> <p>院長 小森 忠光</p> <p>〒558-0011 大阪市住吉区菟田 7丁目 11番 10号 平元ハイツ1F</p> <p>TEL 06-6696-1171 FAX 06-6696-1173</p>
<p>日本ポリグル株式会社</p> <p>代表取締役 小田 節子</p> <p>〒540-0013 大阪市中央区内本町 2-1-19-701</p> <p>TEL:(06)6947-1300 FAX:(06)6947-2888</p>	<p>新居合同税理士事務所</p> <p>代表税理士 新居 誠一郎</p> <p>〒546-0002 大阪市東住吉区杭全 1-15-18</p> <p>TEL 06-6714-8222 FAX 06-6714-8090</p>
<p>岩本法律事務所</p> <p>弁護士 岩本 洋子 弁護士 藤田 温香</p> <p>〒541-0041 大阪市中央区北浜 2-1-19-901 サンメゾン北浜ラヴィッサ 901</p> <p>TEL 06-6209-8103 FAX 06-6209-8106</p>	<p>株式会社 プロアシスト</p> <p>代表取締役社長 生駒 京子</p> <p>〒540-0031 大阪市中央区北浜東 4-33 北浜ネクスビル 28F</p> <p>TEL 06-6947-7230 FAX 06-6947-7261</p>

WHO インターンシップ支援助成のご案内

- 趣 旨** WHOへの人材貢献推進事業の一環として、WHOにインターンとして登用された個人に対し、インターン期間中の生活費等の負担を軽減するために助成を行うものです。
- 応 募 資 格** WHOの本部、西太平洋地域事務局、健康開発総合研究センター等のインターンシップ制度によりインターンとして登用が決定した者
- 応 募 方 法** WHOでのインターン採用決定内容と助成支援を必要とする理由（他の支援制度適用の状況等）を付して協会事務局へ申請してください。
- 申請書必要記載事項** 下記当協会のホームページでご確認ください。
http://www.japan-who.or.jp/m_recruit/book5620.pdf
- 助成対象者の義務** 助成対象者には、インターン終了後、WHOでの経験を協会機関誌「目で見るとWHO」に掲載する記事として報告して頂きます。助成金用途についての報告明示義務はありませんが、何らかの事情によりインターンを中止、中断した場合には直ちにその旨をご連絡頂き、個別事情により助成金をご返還頂く場合があります。